

農繁期

レポート

令和5年 6月号

ニールファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

株式会社 新流
三重県伊賀地区
9.0アール
玄米252kg
無農薬栽培コシヒカリ



生産者 ツライフ農園：北出茂樹さん

田植え後約45日が経過し、茎数3～4本程度で植えた苗が20～25本程度と7倍ほどに分けつが進みました。今はしっかりと根を伸ばすべく、水を切って地面に少しヒビが入る程度に干しています。今年は適度に雨が降り、水の心配が全くなくて稲には良いのですが、畔草の伸びが早く草刈りのインターバルが早く困っています…。農家の仕事の大半は「草との戦い」ですよ。

6月の作業内容

1. 中耕除草機 (通称：田車)

水稲栽培において、初期除草に成功するか否かは重要な点です。この田車を押し爪が回って土をかき混ぜてくれます。雑草の根を切って土中に埋めて除草効果を発揮します。



手押し田車

2. 草刈り

水田の周辺の草刈りはもちろん、周辺の畔や法面 (のりめん) の草管理も良質なお米づくりには欠かせません。すべての雑草が敵という訳ではありませんが、この作業により結果的に害虫の減少にも貢献します。



ラジコン草刈り機

3. 水の管理

除草作業後から、稲株が順調に分けつするまでの間、水管理は極めて重要です。水漏れのひどい場合や、水管理を誤った場合には雑草の生育が旺盛になり、稲の養分を奪うケースもあります。



深水や浅水管理で調整

4. 中干し

中干し (なかぼし) をする理由は主に2つあります。1つ目は根に空気を与えて根腐れを防止すること、2つ目は根元を強くして倒伏を防止すること。田の表面が軽くひび割れるまで行いますが、その程度は田に合わせます。



梅雨の終わり頃の風物詩